

Pal

～仲間



2022
Fall Edition
Vol.115

2022年(令和4年)9月30日発行

第17回 にほんごで話そう!日本語スピーチ大会.....1~3
2021年度の表彰者をご紹介します。.....3
公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ4

発行■ 公益財団法人 大和市国際化協会
〒242-0018 大和市深見西1-3-17
市民活動拠点ペテルギウス北館1階
TEL 046-265-6051 FAX 046-265-6052
URL : <http://www.yamato-kokusai.or.jp>
Email : pal@yamato-kokusai.or.jp



(左上から時計回りに) ①結婚を機にタイから来日した自分を温かく迎え入れてくれた「お義母さん」への感謝の気持ちをスピーチした安藤ファリダーさんとそのご家族。②3名の発表者と2名の司会者を送り込んでくれた座間総合高校チーム。ご家族はもちろん校長先生をはじめたくさんの先生も応援に。③柏木学園高校3年生のモハメド・シャマスさんとそのご家族。社会情勢が不安定な祖国スリランカへの思いと自身の境遇を「感謝」をキーワードに話してくれました。④フィリピン出身のデグズマン・アンジェリン・バラットバットさんは、夫に手伝ってもらいながら自分で着付けた浴衣で登場。⑤大和南高校のラム・ソマリカさんの応援団はお母さんと高校の先生。カンボジアから来日して4年半。学校では外国につながる生徒の交流会のリーダーをしているそうです。⑥チャウエ・リンダさんと最愛の子どもたち。スピーチでは、自然豊かで素晴らしい国、祖国タンザニアの紹介をしてくれました。

当事者が書くこと・語ることと当事者には書けないこと・語れないこと

国際化協会で購入している図書が少しずつ増えてきました。次に何を读もうかと迷うのは、ちょっと楽しいです。読んでいて面白いのは、断然当事者の書いたものなのですが、これがなかなか見つからない。例えば、「一緒に日本にやってきた子どもの日本語が上手になるにつれ、子どもと話ができなくなっていく母親が思っていること」なんていうのは、すごく読んでみたいけれど、当然日本語では書かれないし、読みたい人がそが多いテーマでもないのか、本人に書くことにためらいがあるのか、翻訳されたものを本屋で見かけることもありません。外国人市民が、思っていることを日本人に伝えるにはいくつものハードルがあります。

7月3日に大和市生涯学習センターで第17回となる日本語スピーチ大会を開催しました。日本にたどりつくことになった経済的な事情、ほんとうは日本に来たくなかなかたこと、イスラム教徒の女子高校生の不安、想像とは異なる日本での生活に精神的にひどく落ち込んでしまったこと、自分に対する自信がどんどん失われていく悲しさや友だちがなかなかできずに抱える寂しさ。スピーチ原稿の中の正直で、当事者でないと書けないことはやっぱり面白くて、でも同時に思うことがあります。最近も女子バスケットボール日本代表でナイジェリアと日本にルーツを持つオコエ桃仁花選手が、自身が受けた(と言うか受け続けている)人種差別を公表して話題になりました。当事者がその辛さを語ったり書いたりすることはひどく勇気のいることで、しまい込むしかない人はたくさんいるのではないかと想像します。人種差別から小さな寂しさまで、当事者の周りには、気づいて一緒に怒ったり、少し行動してみたりする応援団が必要です。

次ページから、上位3賞のスピーチ原稿を紹介しします。読んでみてください。そして、ぜひ、当事者の代わりにわたしたちだからこそやらなければいけないことを見つけ、話して、あるいは書いてみてください。

発表者全員の
スピーチは
こちらから



YouTube
でも



第17回 にほんごで話そう！日本語スピーチ大会

公益財団法人大和市長国際化協会
理事長賞受賞

『日本へ来てわかったこと』

神奈川県立座間総合高等学校 1年
モハマド リスラン アーティカ バヌさん

今日は、私が日本での経験を通して考えたことについてお話しします。

私はスリランカで生まれ、家族と暮らしていました。父は日本で働いていましたが、ある日、心臓発作を起こして入院してしまいました。そのため、私たちは父の看病をするために日本へ来ることになりました。すべて予想もしない突然のできごとでした。

私は2017年6月に、家族と一緒に日本へ来ました。インターナショナルスクールで2年間勉強したあと、将来も日本に住むことを考えて、2年前に日本の中学に入りました。

日本の学校に入るようになって、大きな心配が二つありました。まず一つ目は日本語がわからないことです。中学校に入ったとき、私は日本語の話し方、読み方、書き方も知りませんでした。日本語の勉強はとても難しく、時間をかけて勉強する必要がありました。私の両親は日本語を話せますが、読み書きがわからないので、家で一人で勉強することが多かったです。時々そんな生活がいやになり、なぜ日本に来てしまったのかと思ったこともありました。でも、私を信じて、いっしょけんめい働いてきた両親のために、がんばりました。

二つ目の心配は、イスラム教徒としての私の生活でした。中学校へ初めて行った日のことは今でも覚えています。教室に足を踏み入れた瞬間、初めての体験にワクワクするはずでしたが、頭にヒジャブを巻いて、スカートの中にレギンスをはいて、ほかの生徒とは違うかっこうをした私を見て、みんながどう思うだろうか、この新しい環境がイスラム教徒としての私の生活にどのような影響があるのか、そればかり考えていました。

でも、それは私の思い過ごしでした。中学校で、私は今まで通りの生活を送ることができました。学校では、休み時間に毎日のお祈りをするための部屋を用意してくれました。修学旅行では私のためにハラルの日本食を用意してくれました。先生方は私のこれまでの生活習慣が続けられるように、特別な配慮してくれました。そして多くの友だちは、なぜ私がヒジャブで髪を覆っているのか、なぜラマダンの間は日の出から日没まで食べたり飲んだりできないのかについて知りたがっていました。

私たちがヒジャブをつけているのは、女性が慎み深さを持ち、無関係の男性からプライバシーを守るためです。そして、ラマダン月に断食を行うのは、飢えや渇きを体験して、貧しい人たちのことを思い出すためです。

日本の社会がイスラム教徒のことを知っているだけで、私たちの心配と恐怖心は和らぎます。知らないことが、お互いの誤解を生むからです。

日本では、すれ違う人に挨拶をする文化があります。そんなとき、私は温かく歓迎されていると感じ、安心した気持ちになります。いつも気にかけてくれる人がいるような気がします。

はじめは異文化の中で暮らすことが、こわかったです。でも実際に、ヒジャブやイスラム教徒であることを理由にみんなが私に対して敵対的であると感じたことは一度もありません。この2年半で、私の心配は必要ないということがわかりました。

日本は多様性を受け入れる国です。これから日本に留学するムスリムの学生たちがすばらしい経験をするを願っています。私たちは気づいていないかもしれませんが、私たちの未来をじゃましているのは、私たち自身の誤解であることが多いのです。

この先に何があるのかだれもわかりません。でも私はこれからも前向きな考え方をもち続けていきたいと思っています。

大和市長 特別賞受賞

『ふたつのルーツ』

神奈川県立座間総合高等学校 2年
横山アレクサンドラさん

私の名前は「横山アレクサンドラ」と言います。「横山」は日本の名前。「アレクサンドラ」はスペイン語の名前です。

私はペルーのチンボという町で生まれました。父は日系人、母はペルー人です。両親は日本語が話せません。家ではペルーの文化の中で育ちました。チンボでは、アジア人が少なかったし、日系の大統領に批判的な人が多かったので、名前を見てからかわれることが多かったです。でも私は横山という苗字が嫌いではありませんでした。なぜ

なら日本は先端技術を持つすばらしい国だと思われていたからです。

私のひいおじいさんは福島県で生まれました。戦争中、日本での生活は食べ物もなく、生きるのが大変でした。ひいおじいさんは、自分の家族を守るために、船に乗ってペルーに移住することを決意しました。移住してからの生活も大変でした。働いても働いても、生活は楽にならなかったそうです。私のひいおじいさんは、時計の修理をおばあさんは料理を作って生活を支えました。でもその仕事でお金を稼ぐのは難しく、ずっと貧しかったそうです。

ひいおじいさんがペルーに移住してから、約100年が経ちました。最近のペルーは治安が悪く、強盗や殺人事件がたくさんあって、夜は女性が一人で外を歩くこともできません。また、弁護士である母の仕事も、少なくなり、生活が厳しくなりました。一方ペルーから見た日本は、経済大国で、未来的で憧れの国でした。ナルトやセーラムーンなど、日本のまんがも人気でした。日本へ行けば、お母さんも仕事ができ、私も日本の大学に行けるかもしれない。頑張ればお金も得られて、きっと今よりもっといい生活ができる。

私たち家族は、日本へ行くことを決意しました。100年前、ひいおじいさんたちが大きな夢を抱いてペルーにわたった時もきっと同じ気持ち

だったと思います。私たちは逆のルートを、飛行機で、太平洋をわたり、日本へ来ました。日本へ来て、中学校に入り、いよいよあこがれの日本での生活が始まりました。でも学校での生活は大変でした。日本語ができなくて、なかなか友だちができなかったし、ペルーでは成績がよかったのに、日本へ来てから勉強もわからなくなって、悲しかったです。でも、もうペルーに戻ることはできません。

ペルーでは「横山」という名前、日本人だと言われ日本では「アレクサンドラ」という名前、「外国人」になった感じがしてさびしかったです。

私はとりあえず、勉強を頑張ることにしました。まず、教科書の言葉の一つずつ意味を調べて覚えめました。すごく時間がかかったけれど、それを続けていくうちに、成績もどんどん上がっていきました。高校に入学してからも、勉強を頑張っています。

最近マクドナルドでアルバイトも始めました。たくさんのお客様と話ができ、カウンターでレジも打てます。少しずつですが、自分でお金を稼げるようになりました。

昔ペルーに移住したひいおじいさんたちも、家族のために、苦労しながら、一歩ずつ前に進んでいきました。そんなおじいさんたちのひ孫であること、日本人のルーツがあることを今は誇りに思います。

日本に来てから世界には様々な文化があることを知りました。これからはペルーと日本だけでなく、もっといろいろな文化を知りたいです。今高校でフランス語を勉強していますが、大学でもっと世界のことを勉強して、将来はキャビンアテンダントの仕事に就くのが私の夢です。飛行機には、いろいろな文化を持つ人たちが乗っていますから、一人一人のお客様に合った、良いサービスができるアテンダントになりたいです。

日本とペルー、二つの国からもらった私のルーツをこれからも大切に、異文化での私の経験を、社会の中で生かしていきたいと思っています。

大和市教育長 特別賞受賞

『人に頼る勇氣』

神奈川県立座間総合高等学校 2年
多嘉山 由美さん

みなさんは気持ちが落ち込んだり、すごくさびしいと感じた時、どのように克服しますか？今日は私の経験についてお話ししたいと思います。

私の父は日系人で母はペルー人です。私は日本で生まれ、4歳のときペルーに行きました。それから10年ぐらいいペルーで育ちました。3年前私の父に経済的な問題が起こり、日本に戻るようになりました。私は両親から日本はとても美しい文化のある国だと聞いていましたから、日本での生活に期待していました。まず先に父が日本へ行きました。父がいない間、ペルーでは弟と一緒に日本語の勉強を始めました。日本語で名前も書けませんでしたけど一所懸命頑張って勉強しました。その後私と兄と弟と3人で来日しました。母は日本国籍がなかったため、後から来ることになりました。

日本へ来て私は中学2年生に入りました。教室に入った瞬間、とても緊張しました。それまでいっしょけんめい日本語を勉強したのに、うまく話せなかったからです。そのうえ、クラスには外国人に対してふざけてからかうグループがありました。私が先生の質問に答えられないと、笑っていました。それ以来私は自分の日本語に全く自信がなくなりました。聞いたことを間違っていると理解しているんじゃないか、私の日本語はおかしいんじゃないかと思い日本語を使うのが怖くなりました。気分が落ち込みどんどん悲しくなりました。家族に相談したかったけれど、両親は自分たちの問題を抱えていましたから、相談できません。私は一人で泣きました。学校へ行きたくなかったけれど、家族に心配をかけたくなかったので、がんばって行きました。期待していた日本での生活

は想像とは全く逆でした。

それからクラスが変わって、新しい友達ができ、母も日本へ来ました。心配がなくなり、学校も楽しくなりました。座間総合高校に入学してからは、取り出し授業で安心して授業が受けられたし、まわりの生徒も外国に興味がある人が多く、スペイン語で話しかけてくれる人もいました。

ところが去年、何でも話せる友達が突然帰国してしまい、そのことがきっかけで、また気分が落ち込み、勉強に集中できなくなりました。両親は、私を厳しく叱りました。でも、なぜそんなに気分が落ち込むのか、自分でもわかりません。私はまた一人で、悲しみの中に沈んでいきました。

家族にも、友達にも、先生にも言いたくない。私は思い切って、学校のカウンセラーに相談してみようと思いました。私は日本語でいっしょけんめい自分の気持ちを伝えました。すると、気持ちがだんだん軽くなっていきました。それから何度かカウンセリングを受け、その後家族にも打ち明け、前向きな気持ちが少しずつ戻っています。

2か月前、先生からスピーチ大会の話聞いて、やってみようと思いました。自分に自信が持てるかもしれないと思ったからです。この大会のために、たくさん練習をして、今は、こうして大勢の知らない人の前で、話ができるようになりました。日本へ来たばかりのころには想像もできなかったことです。

これからも気持ちの浮き沈みをコントロールするのが難しいときがあるかもしれませんが、そんな時は、人に頼る勇氣が大切です。私は自分の経験を後悔することなく、むしろその経験を生かしているいろいろなことにチャレンジしていきたいです。

最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

 新着書籍のご案内

国際化協会の蔵書、新着書籍をご紹介します。貸し出しも行っていますので、お気軽にご利用ください。



マイ スモール ランド 川和田恵真 《講談社》1,500円

3人の高校生のスピーチに続いて、今回は、日本に暮らす外国に繋がりを持つ女子高校生が主人公の小説をご紹介します。

「あなた、お人形さんみたいねえ。」「お国はどちら？」「日本語が上手ねえ。外人さんとは思えない」。

国を持たないワルド人でありながら、幼い頃から日本で暮らし、ワルド語は解さないサーリヤは、難民申請が不許可になった翌日、アルバイト先であるコンビニのレジで、このように声をかけられます。

善意だったら人の心を土足で踏みつけていいのか？今までだって何回もなんかも同じような場面に遭遇し、悲しみも怒りも顔に出さないプロになろうとしていたのに…。作者はこのときのサーリヤの気持ちを「憎悪」という言葉を使って表現します。

作り話だから伝えられる、伝わることもあります。同名の映画を撮った川和田恵真監督が描き下ろした小説です。

●一般表彰

2021年度の 表彰者をご紹介します。

長年の貢献に心から
感謝申し上げます。

国際化協会では、国際化協会の発展に功労のあった方や地域の国際化推進に貢献のあった方を年に一度表彰し、その功績を称えています。

多年にわたり通訳・翻訳ボランティアとして地域の国際化進展のため多大な貢献をされた方

横本幸子さん、豊田実紗さん(いずれも英語)



横本幸子さん

多年にわたり協力指定店として地域の国際化進展のため多大な貢献をされた方

総合市場・韓国村



総合市場・韓国村

やまと世界料理の屋台村
開催中止のお知らせ

10月23日(日)に開催を予定していたやまと世界料理の屋台村は、新型コロナウイルス感染症の拡大が終息しないため、中止とさせていただきます。

公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

9:00~16:00 ベトナム語
10:00~13:00 タガログ語
10:00~13:00 中国語
9:00~17:00 スペイン語

日	月	火	水	木	金	土
現在、Siempre! Genki! (スペイン語による介護予防教室)は、活動を休止しています。新型コロナウイルスの感染状況が落ちついたら再開します。詳しい情報は、国際化協会ホームページ、フェイスブックでご案内しています。						1
現在、外国人ママのひろばは、活動を休止しています。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、国際交流サロン内で飲食ができる様になったら再開します。詳しい情報は、国際化協会ホームページ、フェイスブックでご案内しています。						8
10月	9	10	11	12	13	Siempre! Genki! (スペイン語による介護予防教室) 休止中
	16	17	18	19	20	21
	23	24	25	26	27	28
	30	31		外国人ママのひろば 休止中		29
		1	2	3	4	5
	6	7	8	9	ピックアップ! 日本語教授法 ブラッシュアップ講座 第1回	12
11月	13	14	15	16	Siempre! Genki! (スペイン語による介護予防教室) 休止中	19
	20	21	22	23	外国人ママのひろば 休止中	26
	27	28	29	30	ピックアップ! 日本語教授法 ブラッシュアップ講座 第2回	
				1	2	3
	4	5	6	7	8	9
12月	11	12	13	14	Siempre! Genki! (スペイン語による介護予防教室) 休止中	17
	18	19	20	21	外国人ママのひろば 休止中	24
	27	28	29	30	Pal Vol.116 発行	31

土曜開庁日 【毎週火曜日】かんたん日本語教室

■公益財団法人大和市国際化協会
〒242-0018
神奈川県大和市深見西1-3-17
市民活動拠点ベテルギウス北館1階
Tel: 046-265-6051
Fax: 046-265-6052
Email: pal@yamato-kokusai.or.jp
http://www.yamato-kokusai.or.jp
受付時間 月・水・金 第1、3土曜日
8:30~17:00
火・木 8:30~20:15



ピックアップ!

①開催日時 ②開催場所 ③費用 ④内容 ⑤講師
⑥対象 ⑦定員 詳しくは、国際化協会のホームページ
(http://www.yamato-kokusai.or.jp/)でご確認ください。お
問い合わせ、お申込みは、電話、窓口、Fax、Emailで受け付けます。

注意
新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催日時を変更することがありますのでご了承ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

多文化共生防災訓練
大きな災害に備え、日本語がわからない人に災害の情報を伝えることができるよう、訓練を実施します。
①11月20日(日)午前9時30分~正午 ②つきみ野中学校 ④災害のときに外国人が直面する課題などについての講義及び外国人参加者との合同ワークショップ(やさしい日本語とピクトグラムを使った情報伝達) ⑤NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会理事 高橋伸行氏、大和市役所危機管理課 ⑥どなたでも

**日本語教授法ブラッシュアップ講座
~外国人が自分らしく生活するために**
地域に暮らす外国人にその人らしい表現を身につけてもらうための日本語支援に必要なスキルを、「話すこと」「書くこと」の2回に分けて学びます。
①第1回:11月12日 第2回:11月26日 いずれも土曜日 午後1時30分から3時30分 ②ベテルギウス北館会議室 ③無料 ④第1回「私たちができる学習支援のやり方(話すことを中心に)」 第2回「私たちができる学習支援のやり方(書くこと、作文を中心に)」 ⑤にほんごの会企業組合 宿谷和子先生 ⑥地域で日本語を教えている方、教えてみたいと思っている方 ⑦各回30名(1回のみ参加も可能です)

多文化共生会議の委員募集
この会議は外国人市民と日本人市民が委員となり、生活を通して感じる大和市の多文化共生に関する課題を共有し、調査や話し合いを重ねて解決策を検討する会議です。第6期の開催に向けて委員を募集しておりますので、ご希望の方は当協会までご連絡ください。
①2022年12月から2024年11月までの予定(2か月に1回程度、会議を開催します) ⑥市内在住・在勤・在学・在活動の方12名程度

ハッピーフェスタ
ベテルギウスまつりの一環で行うイベントです。
①12月18日(日)午前10時~午後1時(予定) ②ベテルギウス北館 ④世界とつながろう~外国人市民ゲストを迎えてのワークショップ ⑤世界の友だちプロジェクト大和の会ほか ⑥どなたでも

大和市プレスクール
小学校入学を見据えて日本語などを学習する未就学児向けの教室です。
①シリウス20回コース(1月11日~3月22日までの水曜、木曜)、イコーザ10回コース(1月13日~3月17日までの金曜)いずれも午後2時~4時 ③2,000円(20回コース)1,000円(10回コース) ⑥未就学児